

令和7年第9回下松市教育委員会定例会議事録

- 1 開催日時 令和7年9月24日（水）後1時00分～午後2時00分
- 2 開催場所 下松市役所 5階 503会議室
- 3 出席委員等
教育長 玉川 良雄
委員 江口 雄二
委員 林 哲人
委員 木佐谷 真理子
委員 笠谷 由美子
- 4 会議に出席した事務局職員
教育部長 原田 幸雄
教育次長 引頭 康行
学校教育課長 田谷 義和
学校給食課長 池田 年規
生涯学習振興課長 戸高 孝文
図書館長 網本 浩明
下松中央公民館長 桑島 洋明
- 5 会議の書記 教育総務課課長補佐 村上 大
- 6 会議録の署名委員 林 哲人 木佐谷 真理子
- 7 会議の傍聴人 0人
- 8 会議に付した議題
(1) 議案第10号 下松市教育委員会事務事業点検評価について
(2) 報告第19号 専決処分について
- 9 会議の付議の顛末

○教育長 それでは、9月の教育委員会定例会を開催いたします。

本日の議事録署名人ですが、林委員、木佐谷委員でお願いいたします。

それでは、早速、議事のほうに入ります。

(1) 議案第10号 下松市教育委員会事務事業点検評価について

○教育長 議案第10号、下松市教育委員会事務事業点検評価についてを議題といたします。

担当のほうで説明をお願いいたします。引頭教育次長。

○教育次長 議案第10号、下松市教育委員会事務事業点検評価についてご説明いたします。

資料は1ページになります。それと、別添えで点検報告書のほうを配付させていただいております。

この議案は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条、下松市教育委員会事

務事業点検及び評価実施要綱の規定に基づきまして、事業の点検評価を行った結果についてお諮り申し上げます。

別添の報告書のほうを御覧いただきたいと思います。

1枚めくっていただきまして、目次がございます。下の欄に事業名の一覧を掲載しております。事業数は32事業でございます。教育総務課が5、学校教育課が10、学校給食課が1、生涯学習振興課が12、図書館が3、公民館が1となっております。

続きまして、2ページからとなります。2ページからは、評価項目を掲載しております。

妥当性として事業目的についての評価、有効性として事業の成果の評価、効率性としてコストの評価、関与性として実施主体としての評価をしております。

また、3ページになりますが、これらを踏まえて総合評価として、事業の今後の方向性を評価しております。

3ページ下段からは、各担当課における自己評価の集計をしております。おおむねA、B評価となっております。

そして、最後5ページの下段、総合評価でございますが、29事業が継続評価、3事業が拡充評価となっております。

6ページに評価の一覧を載せてあります。

教育委員会の事務事業評価につきましては、学識経験者の知見を活用するというようになっておりまして、7ページから3名の委員さんの意見を掲載しております。頂きました意見を踏まえ、今後の事業の検討・充実に努めてまいりたいと思っております。

21ページからは、各事業ごとの評価のシートの詳細となっております。

説明につきましては以上です。

○**教育長** 本年度の事務事業評価の報告書の提出がありまして、それについての概要は、説明は今ございましたが、今初めて資料に目を通していただくような格好なので、なかなか一つ一つの事業についてのご意見をということは難しいかと思いますが、どうでしょうか、ちょっと見る時間を取りましょうか。気づきがあったらそのままお聞きいただければと思いますが。

目を通していただいて、お気づき、質問等ございましたら挙手をしていただいたらと思います。少し時間を取ります。

簡単に各課のほうから、事業について簡単に、昨年度の特徴について話をしてもらいましょうかね。次長からお願いいたします。引頭次長。

○**教育次長** まず、21ページ、学校施設の設備充実につきましては、特徴といたしましては、末武中学校の本館の長寿命化改修を進めることとして設計業務を行いました。また、体育館ですね、屋内運動場の照明のLED化について計画的に進めております。

また、同じく計画的に進めている小中学校の特別教室の空調につきましては、花岡と東陽、計画どおり設置をしております。

それから、ナンバー3、23ページですが、学校用地につきまして、昨年度、花岡小学校の一部の土地について測量を行いました。この測量結果に基づき、現在、買収の手続きを進めております。令和7年度買収する予定となっております。

それから、ナンバー5、25ページ、海外語学研修派遣事業でございますが、昨年まで

コロナでずっと中止しておりましたが、昨年5年ぶりに再開いたしました。場所もこれまでのカナダからオーストラリアに変更し、実施、無事研修を完了することができております。

教育総務課からは以上です。

○教育長 ここまででご質問ございますか。説明のほうを先に流しましょうか。学校教育課、お願いします。田谷課長。

○学校教育課長 まず、26、27ページでございます。

小学校ALTと中学校ALTの派遣についてです。どちらも学校に授業等で支援を行うということで、しっかり定着をしているところです。

なお、中学校のほうは以前お知らせしたように、南アフリカ共和国からカズが任用されて、7月末から、まず1年間ということですが、中学校のほうに勤めているところです。

28ページを御覧ください。

学校教育課の中で拡充としているのは、こども支援員の配置のみでございます。予算上、なかなか難しい部分はあるんですけども、引き続き支援が必要な児童生徒が多うございますので、拡充も視野に入れて配置を進めてまいりたいと考えております。

30ページを御覧ください。

下松市教育支援センターについてでございます。昨年度、サテライトルームということで、公民館のほうへ指導員が行って支援をするというような取組を始めております。人数は少ないですけども、1人でもいいのでそういう子どもたちの支援ができていているところは、大きな成果ではあるのではないかなと思っております。本年度も、サテライトルームを臨機応変に開設するという形で継続をしております。

31ページ、下松市カウンセリングルームやこころサポーターの活用についてです。

昨年度、こころサポーターを今まで教育相談員ということで名称をつけておったんですが、こころサポーターに変更して、中学校だけでなく小学校の大規模校3校に配置をいたしました。

教員以外の会計年度職員が、不登校とか学校に行きづらい子たちへの支援ができるという面においては、大変有効な事業であると考えております。

32ページを御覧ください。

コミュニティ・スクール推進事業については、地域連携教育がほぼほぼ定着をしております。もう昨年度ぐらいから、子どもや地域を含めた熟議というものを中学校区で行う取組も定着をして、全ての関係者が当事者として地域連携教育に関わるという風土が整ってきたように感じているところです。また、引き続き、くだまつ愛の醸成に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

34ページを御覧ください。

学校における働き方改革の推進についてです。現在、年間で平均月30時間程度というところが示されているところではあるんですが、年々時間外の勤務は減っております。これは各校に配置した教員業務支援員、あと中学校については、部活動改革ということで地域移行を含めた取組が進んでいることから、小学校よりは中学校のほう割合として働き

方改革についていえば効果が出ているという捉えでおります。

学校教育課からは以上でございます。

○教育長 それでは、続きまして生涯学習のほうに説明してもらおうと思います。戸高課長。

○生涯学習振興課長 生涯学習振興課は、37ページからになります。

我々の課はちょっと項目が多くございますので、昨年度から変更があった点を中心に説明させていただきます。

まず、38ページ、青少年の健全育成活動です。こちらは、昨年度まではこの健全育成活動と別に、特出しで子ども会の活動支援事業というものが別項目でございました。子ども会活動だけでいくと、子ども会の加入数が減少しておったということで、事務事業の評価が非常に厳しい評価をしておりました。

総合計画には、この青少年の健全育成活動の中に子ども会活動事業が入っておりましたので、総合計画等に準じまして、今年度からは青少年の健全育成活動に子ども会支援活動を入れて評価をしております。全体評価としましては、4番の評価でBというふうになっております。

昨年度からになります。情報誌「ねえ」というのを年に2回発行しております。その中に高校生のスタッフが加入してくれました。そういった動きも見せております。今後、青少年の健全育成活動なんですけども、若い力を活用して活性化を図っていきたいと思っております。

続きまして、40ページ、ナンバー20の生涯学習活動の推進支援事業になります。

こちらは、4番の事務事業の評価のところで、有効性Cというふうな評価をいたしております。先ほど、次長のほうからご説明がございましたが、A、B、C評価をしていく中で、教育委員会の中で唯一Cの項目がついております。

生涯学習活動につきましては、公民館講座や各種講座の開催をしておるところでございますが、毎年、参加者がある程度固定されたというか、同じ方が参加してくださる傾向がずっと続いております。全市民を対象に周知はしておるところですが、なかなか幅広い参加が得られていないという評価を我々自身で下しまして、厳しめの評価をしております。

今後、幅広い年齢の方々に参加していただけるような工夫をしていきたいと考えております。

この項目につきましては、高等教育機関や市民の方を講師にしていろいろな講座を開講しておりますが、そういったこともいろいろと工夫して検討していきたいと考えております。

続きまして、41ページのナンバー21、生涯学習による人づくり・地域づくり事業となります。

こちら、昨年度までは下松市民憲章推進によるまちづくりということで、市民憲章だけの特出しして評価をしておりましたが、総合計画に準じまして、市民憲章推進も生涯学習による人づくり・地域づくりによって評価をしております。

こちらは、7月第4日曜日のくだまつ親子の日フェスタや、笑顔の写真コンテスト、あとは市民憲章の活動等を入れております。それぞれ横のつながりもできるようにいろいろ考えていきたいと思っておりますが、親子の日フェスタにつきましては、今年度から高校

生、先ほどの「ねえ」に加わっていきましたボランティアスタッフさんが、親子の日フェスタに参加していただいたというような横のつながりも出てきておりますので、そういったことを活用して活性化を図っていきたくと考えております。

42ページの「二十歳のつどい」につきましては、今年度はこちらでもご報告したことがございますが、25歳のつどいも今年度はやっておりますので、それも加えて評価をしております。

二十歳のつどいつきましては、他市よりも非常に出席率が高いですので、引き続き維持できるように頑張っていきたいと思っております。

続きまして、44ページのナンバー24、芸術文化の振興です。

こちらも昨年度までは吹奏楽の活動支援を別建てしておりましたが、吹奏楽協会の事務局を今年度から下松市文化振興財団のほうに移管しておりますので、吹奏楽の活動支援もこちらのほうに統一して評価をしております。

最後になりますが、47ページ、27番でくだまつ歴史の杜整備事業を上げております。

これは今年度から新たに加えた項目になります。昨年の12月に國井市長のほうから「くだまつ歴史の杜」構想というのを公表されましたので、今年度から準備事業を始めております。天王森古墳から出土した埴輪を収蔵できる施設と公園を一体化して整備するという計画案がございます。

昨年度、教育委員の皆様にも下関の考古博物館に行ってくださいましたが、ああいったものを目指して今から事業を進めていくということで挙げております。

生涯学習振興課からは以上です。

○**教育長** それでは、学校給食課、お願いします。

○**学校給食課長** それでは、学校給食課のほうの説明をさせていただきます。

36ページ、ナンバー16でございます。

学校給食課のほうは、教育的意義を尊重し、楽しく豊かなよりよい学校給食の実施に向けて、地産地消の取組や食に関する情報発信など、関係各課と連携して行っております。

学校給食でございますので、小学生、中学生に対する食を安心して提供するということがあります。小学校では、乳製品及び卵アレルギーを除去したものを作っております。ただ中学校では、施設の広さ等がありますので、まだ除去食というところには至っておりませんので、セレクト給食で対応しておるということになっております。

事務事業はBが3つで、Aが1つでございます。

先般の議会でも言われたんですが、無償化の話が出ておりますけど、無償化はすみません、今、国のほうからもまだ詳しい話が出ておりませんので、何とも言えない状況でございます。

以上でございます。

○**教育長** それでは、図書館、お願いします。網本図書館長。

○**図書館長** それでは、図書館は49ページからになります。

事業としては子どもの読書活動の推進ということなんですが、これは小中学校の連携事業になります。全小学校の4年生を対象に「星ふるまちの図書館教育」として、図書館職員が出向いて、図書の分類番号とか図書館の利用方法についてご説明をしております。

それから、各小中学校への団体貸出し、中学生を対象にした職場体験等を受け入れて、学校連携の強化を図っております。

続きまして、50ページ、事業名が図書館の充実。

これは主にデジタルアーカイブになります。昨年度は、天王森古墳から発掘された盾形埴輪2体、それから、下松市が誕生するに至った下松市制具申書、この2件をデジタルアーカイブに掲載しております。昨年は、下松市制施行85周年という節目に合わせて、こちらを掲載いたしました。

最後になります51ページ、移動図書館の充実。

ご存じのように、図書館にはあおぞら号といって移動図書館があるんですが、市内53ステーション、6コースですね、こちらを巡回して図書の貸出しを行っております。なかなか図書館本館に来られない、小さいお子さんを持つ親御さんとか高齢の方を対象に、移動図書館という機動力を生かした図書館サービスをこれからも継続していこうと思っております。

以上でございます。

○教育長 最後に、下松中央公民館です。桑島館長。

○下松中央公民館長 公民館事業につきましてご説明いたします。

ページとしては52ページ、一番ラストのページでございます。

公民館、市内10公民館ございますけれども、ハード・ソフトそれぞれ進展した事案、あるいは課題が明確になった事案というふうに多々ありますが、こちらのシートにつきましては、主にハードについてちょっと掲げてございます。

それで、計画的に修繕、改修等々を行っておるんですが、主な特徴として、近年、複合化を視野に入れた米川公民館、それから末武公民館の建て替えが着々と進んでおります。それぞれ準備室もできておまして、今、特に米川のほうが先行してやっているところなんですけど、結局、建物的には公民館ではなくて、地域の拠点施設でございますので、公民館としては機能があるという状況でして、条例等の位置づけとか、公民館の在り方、こちらは今後、関係各課等も含めて明確にしていきたいというふうに考えてございます。

事業の評価としましては、例年と変わりなく妥当性がA、それ以外はBということで評価しております。

以上でございます。

○教育長 それでは、質疑に入りたいと思います。どなたからでも結構ですので、ご質問、ご意見等ありましたらお願いいたします。

では、私から聞いてよろしいですか。どこかCの評価があったんですが、生涯学習でしたかね、Cがついた説明もございましたが、生涯学習の中でも公民館の出前講座とか公民館講座に関するものなので、社会教育の中心的な事業じゃないかなと思っておりますが、有効性がCということで、これは5つほど事業がありますけど、実はこれ一つ一つ見たときに全てがCということじゃないかなという個人的な感想を持っているんですが、そもそもこの事業評価シートがあまりにも簡素過ぎて、大ざっぱなところがあるので、そのあたりを変えていかなければいけないのかなというふうに思いました。

というのは、事業名ごとにある程度の評価をした上で総合評価をするというような形で、

この事業評価書を見直していくようなこともちょっと検討していただけないかなと思いついて、話を出しました。

事業評価書のつくり方、構成についての質問です。どうでしょうか。引頭次長。

○**教育次長** この事務事業評価シート、評価が始まってから何度か見直しはされてきております。

来年度は総合計画の後期基本計画、今、前期基本計画なんですけども、後期基本計画が始まりますので、その事業と併せて見直し等も考えていきたいというふうに思っております。

以上です。

○**教育長** 評価の仕方について、ぜひ見直しをしていただければというふうに思います。評価する担当課もちょっと大変なのかなというような感じがするんで、個別に評価した上で全体評価というような形で見直ししていただけると、よりよい評価状況が把握できるかなというふうに思いました。一応要望ということでお願いいたします。

そのほかございますか。江口委員。

○**委員** ナンバー24の芸術文化の振興なんですけど、これも吹奏楽によるまちづくりということで、吹奏楽のつどいにこの前行ってきたんですが、クラブ活動の地域移行化があって、今回初めて小中学校のお母さん方がお手伝いされていたんですね。今までは吹奏楽協会の理事とか役員がやっていたんですが、ものすごく多いんで聞いてみたら、お母さん方が手伝っている。僕、大変いいことだと思いついて、そういった意味もあって観客が多かったんですけども、お母さん方も今までこういったクラブ活動のお手伝いをしたかったんじゃないかなという気持ちも若干ありました。

ほかの活動、スポーツは分かりませんが、「音楽のまち下松」と推奨しているわけなんで、もうちょっと予算をつけてもらって、例えば中四国大会を下松でやるとか、もっと大きい全国大会を下松でやるぐらいの音楽のまちにもっともっとできるんじゃないかと思う。

取りあえず、県の音楽大会の中心のほうの下松に持っていけるような力があると思うんで、どんどん頑張っていたらいいと思うんですよね。特に音楽のレベルが小中学校は特にほかの市に比較、ずば抜けてすばらしいですね。

これ何か一つ市でも特色あるものをどんどんお金をつけて伸ばしてほしいんで、僕は音楽が一番いいんじゃないかなとを感じるんで、もしできればよろしくお願ひしたいと思いついてます。

○**教育長** 担当課、戸高課長。

○**生涯学習振興課長** 今、江口委員さんご指摘のとおり、先週ですか、吹奏楽のつどいが行われまして、今年度から協会のほうが主体でやっていたいております。部活の地域移行も始まりまして、吹奏楽につきましては、小中学校で全ての学校が地域移行できておりますので、そういった形になると思いついてます。

県レベルでということですので、そうなるいろんなところをまず巻き込まないといけないので、教育委員会全体としていろんな調整をしていくことができればいいなと思っておりますし、文化振興財団のほうに事務局が移行しましたので、これまでよりもより柔軟な発想でいろんなイベントができるように、期待をしているという言い方をすると申し訳

ないんですけど、我々もできるところをしっかりと手伝っていきたいと思います。

○**教育長** 江口委員さんからすばらしいご意見をいただきましたので、予算がつくつかないは別にしておいて、下松市が吹奏楽のまちということで何か主催的な行事がもう少し増えるといいかな、あるいは全国的にも吹奏楽のまちでまちおこしをしているまちは少ないと思いますので、吹奏楽が盛んなまちとの交流とか、そういったこともできるといいんじゃないかなというふうに思いました。少しずつ実現できるように知恵を巡らして努力していきたいというふうに思っております。

そのほか。

給食のこと聞いていいですかね。無償化の話は、今の国のほうで議論になっているということで、市議会でも質問が出たんですけど、その動向を注視しながら検討していくことにしております。中学校の給食センターの除去食の話ですが、スペースがないということなんですけど、除去食についてはアレルギー対応を必要とする子どもたちが年々増えている状況の中で、セレクト給食については見直すべき時期に来ているのかなというふうに思います。

別にセレクトが悪いと否定しているわけじゃないですが、除去食とかアレルギー対応も含めた、市の対応というものを、今後、真剣に検討していく必要があると思います。

スペースがなければスペースがないなりにできること、あるいはスペースをつくる。そういう努力をしていく。安全・安心な給食をより精度を高めていく意味でも必要なことかなというふうに思います。課長、どうですかね。池田課長。

○**学校給食課長** 今言われたことは、確かにおっしゃられるとおりで思っております。

ただ、中学校給食センター、見られた方もおられるかと思うんですけど、あまりにもちょっと作業スペースが狭い。除去食の場合は、今の除去食はきちんと仕切りをつくって囲って作らないといけない。私ども今の中学校給食センターは、すみません、囲って作るほどのスペースがないのも事実でございます。

先般の議会でもいろいろ言われましたので、ちょっとどういったことができるのかというのは考えていきたい。それとセレクト給食も確かに内部のほうでいろいろ意見も出ておりますので、これも取りまとめて、また報告できるようにしたいというふうには思っております。

以上です。

○**教育長** ぜひ検討、調査研究をお願いいたします。

そのほかございますか。笠谷委員。

○**委員** 事業評価シート、ナンバー11ですけれども、こころサポーターという方はどういう資格の方がやっつけらっしゃるのかと思ひまして。

○**教育長** 田谷学校教育課長。

○**学校教育課長** こころサポーターについては、資格は求めておりません。学校教育に関心があって、不登校対応に協力をしていただける方ということで任用しております。

ただ、市の広報でも周知をしております。中には臨床心理士等の資格を持っておられたり、それを持ちたいという意向のある方に任用をお願いしているというケースもございます。全ての方がそういう資格を持っているということではございません。

以上です。

○**教育長** よろしいですか。そのほかございますか。林委員。

○**委員** 教育支援センターの利用なんですけど、何か前、話を聞いたところによると、本来の目的の中学校じゃなくて、小学生がいっぱいで手に余るということを言われたと思うんですけど、今後、入れるスペースを考えると今はいっぱいいっぱいなのかなと思うんですけど、本当は市内のどこかに子どもたちが自転車でも、親の車じゃなくて自転車でも行けるようなものがあれば、それが一番いいんでしょうけど、そうすると今度は、逆に多過ぎて難しいというのがあります。

移転とかいうことについては特に考えてはいらっしゃるんでしょうか。

○**教育長** 田谷課長。

○**学校教育課長** 以前、議会のほうで議員さんのほうから、もっと市内にあったほうが行きやすいんじゃないかということで、それも受けてサテライトルームというシステムで実際に運用を始めたところではあったんですけども、なかなか近くであると、逆に子どもたちが利用しづらい、公民館に入ることすらなかなか難しいということがありました。

今後、いろいろな方法、希望の星ラウンジも古うございますので、そういったことも今後は考えるときが来るとは思うんですけども、現段階では笠戸島のラウンジで小学生と中学生を受け入れる、あとはサテライトルームを臨機応変に開設をすることで、近隣の居場所づくりの強化に努めるというところを考えています。

以上です。

○**教育長** 木佐谷委員。

○**委員** 人数が多くなって先生がおっしゃっていましたが、ラウンジの今人数が大分増えているということなんですか。

○**教育長** ちょっとその辺の実情、人数について。田谷課長。

○**学校教育課長** ここ数年、小学生が増えております。現状でも、今年に入ってから小学校のほうが多い状況でございます。

実は中学校はステップアップルームというのが、下松中学校は昨年度から、本年度から末武中学校にもできましたので、そちらのほうに通うお子さんもおられるということもあるかと思えます。

ただ、なかなか小学生が希望の星ラウンジに行くと、中学生が一人で落ち着いて過ごせないっていう考えを持っている生徒さんもいるのは事実でございますので、そのあたり部屋の割り振り等も現在指導員さんが工夫をされて、個室のところは中学生を入れて、1階の広いスペースのところは小学生で複数の支援員が見守るというような体制を取っているところでございます。

以上です。

○**教育長** 受入れのスタッフの数も限られているから、なかなか一遍に小中学校から多くの子どもたちを受け入れるというのは難しい状況であると思えます。

施設も今、田谷課長のほうからありましたけど、改修をしなければいけない時期もあるんじゃないかなと思うんですけど、そのときに、先ほどから話がありました子どもたちが通いやすいような場所とか施設、今、子どもたちの多様性に合わせた多様な受入れ体制の整

った施設、こういったこともまた市としても考えていかなくちゃいけないので、そのあたり施設の老朽化、改修に合わせて新たな不登校対応の方策を市としても検討していかなくちゃいけないかなというふうには思います。

ただ、本当にあそこに通いたいけれども、バスは少ないし、運賃も高いし、交通の便も不便なんですよね。これ議員さんのほうからもいろいろ指摘されていますが、不登校の数も年々増えて、今200人近くが小中学校で不登校で学校に通えていないという状況なので、教育委員会としても、しっかりそのあたり実態を踏まえて方策の検討をしていく必要がある時期かなというふうには思います。

いろいろありがとうございました。そのほかございますかね。よろしいですか。江口委員。

○委員 一つ提案というか、こういったことをやってみたらどうかと思うんですが、「くだまつ愛」というのは今一番大切なので、くだまつ愛というのはこれから子どもたちが成長して、それから就職をして、とにかくこの下松市から出ないようにして、みんなが下松を誇りに思ってもらいたいと思うんですが、それで今一つ見ると、7月の第4日曜日「くだまつ親子の日」とありますけども、今このまま（「何ページですかね」と言う者あり。）これは41ページ、今こういったお祭りをやっても、子どもたちが地域の子ども会なんか少なくなってきた、多分参加者も少なくなってきたんじゃないかと思うんですよね。

こういったものを、このままやってもいいんだけど、くだまつ産業まつりみたいなものをして、下松のいろんな大企業と提携して、下松でこういったものをつくっている。子どもたち経験させたり、何かスポーツ対抗をやらせて商品を出したりとか、それから音楽を演奏したりとか、何か下松独自のいろんなPRをする。自分たちの子どもたちに下松はこんなところだよということをPRするようなお祭りが一つ欲しいんですよね。

例えば、お菓子屋さんも中小企業を出てそこで販売したりとか、下松はこんなものをつくっているんだ、こんなものを売っているんだ、こんな楽しいことがあるんだということ、何か一日親子で遊べるようなものを下松市主催でやったらどうかなという感じがするんです、今まで見ててね。どうでしょう、そういったあれは。

○教育長 まちづくり、産業とか文化教育いろいろ一緒に混ぜてミックスしてのイベントのような形ですね。

○委員 総合的なお祭りがね、昔、産業まつりとかいろんな行進したりというのがあったじゃない。ああいうとこじゃなくて、どこか大きな会場でいろんなものが集まって、種々ごちゃごちゃでね、遊んで食べて珍しがっていいなというような、ものを売って食べて買ってというような楽しいものが、下松ちょっと祭りが無いんじゃないかという感じです。

○教育長 次期総合計画の中で、市長と一緒に総合教育会議というのがございますので、市長さんも交えてそういう話もできればいいかなと思いますし、担当が教育委員会じゃなくて、地域振興部ですかね。戸高課長。

○生涯学習振興課長 担当はどこかねという話で手を挙げたんですけども、産業という言葉が出れば、もちろんそれは地域振興部産業振興課がございまして、そこら辺にはなるとは思いますけど、生涯学習のほうではこういった活動をしておりますので、一緒にやるということになると、横断的な組織をつくってやらなければいけないでしょうし、場所の問題

もいろいろあるでしょうし、民の力も借りるといいと思いますので、いろんな可能性があるので、1日でいろんなこと同時にイベントをするのもいいでしょうし、これはいろいろ今から考えていかなければならないと思っております。

○委員 多分これは市だけじゃなくて、商工会議所とかいろんなものを交えて、市長さんがいうオール下松でやったら。すぐにはできないと思いますが。

○教育長 いろんな分野から官民合同で教育も含めて、教育分野も含めて何かできると、下松を盛り上げていくことができるかなと思いますが、いいご提案ですね。そのあたりは原田部長が詳しいです。

○教育部長 詳しいわけじゃないんですけども、以前私が地域振興部におりました。その時に、くだまつ総踊りで、くだまつ総踊りを結果的にやめたんです。やめるためには相当なエネルギーが必要でした。賛否両論あって、賛成される方もいらっしゃるし、祭りを中止することに反対される方もたくさんいらっしゃいました。今、いろんな町でいろんなお祭りが行われていますけれども、基本的には行政主導ではないんですよ。そうすると誰がやるのかということになると、当然町のいろんな団体、いろんな組織が連携をして、行事を行うということになるわけですけども、そうすると、先ほど江口委員のご提案からすると、まさに地域振興につながるようなお祭りになってくるので、いろんな団体と考え方を整理しないと、なかなか難しいのかなというふうに思います。その中に、教育関係の部分が一翼を担うというか、そういう意味での関わり方というのは十分考えられるんですけども、広い意味で大きな組織を作っていく必要があるというのは大前提だと思います。そういった意味では、どこかで仕掛けていかないといけないのかなと思います。そういった意味では、貴重なご意見をありがとうございます。

とにかく行事を始めるのも難しいですし、行事をやめるのも難しいと。だからといって、マンネリ化した行事を続けていくのが本当に大事なのかというと、そういうことでもないもので、そういう意味では、今回の事務事業評価のように、いろんな角度で事業自体を見直していきながら、改良改善していくのか、やめていくのか、そういうふうに見極めることが大事なのかなと思います。以上です。

○教育長 貴重なご提案ありがとうございました。

その他ございませんか。無いようでありましたら質疑を狩猟します。この事務事業評価報告書につきましては、この後、どこかで提出するんですかね。ここで終わりですか。

○教育次長 これで決定。

○教育長 報告書について採決したいと思います。異議のある方はいらっしゃいますか。異議はなしということでよろしいでしょうか。〔「はい」と言う者あり〕 それでは、満場一致で可決ということにいたします。

(2) 報告第19号 専決処分について

○教育長 続きまして、報告第19号、専決処分についてを議題といたします。次長。

○教育次長 報告第19号、専決処分について、ご報告いたします。資料は2ページからに

なります。

市議会9月定例会に、動産の買入れについてという議案が提出されるにあたり、教育委員会の意見を異議なしとすることとしたものでございます。

動産の買入れの議案につきましては、3ページにございますが、GIGAスクール用の端末、いわゆる児童生徒1人1台のタブレットの更新について契約をする議案でございます。

端末の更新につきましては、令和2年、3年にかけて1人1台を整備いたしました、その端末について、今年から3年間をかけて更新することにしておりまして、今回が第1回目の購入となります。今年、中学生の3学年分、1,827台を1億3,499万9,550円で、フジフィルムビジネスイノベーション株式会社山口支社から購入することとしております。

この業者選定にあたりましては、山口県と県内の市町で構成する協議会がプロポーザルを実施して決定しております。なお、この議案につきましては、9月市議会で既に議決されており、本契約というふうになっておりますので、報告いたします。以上です。

○**教育長** GIGAスクールの端末の入替えについての報告をいただきましたが、質問等ございますかね。3年間で新しい物に替わっていくということですね。特に変わったことはありますか、これまでと。引頭次長。

○**教育次長** 端末の内容について、前回、今使用されている端末と比べますと、もちろん機種が新しくなっておりますので、処理速度でしたり、グラフィックの性能であったり、そういった機能はかなり向上しております。画面サイズも多少ですが、大きくなっております。その他の附属品といたしましては、キーボード付きのケース、これが少し頑丈なものに変更しております、かなり破損も多いものですから、そういうふうにしております。以上でございます。

○**教育長** 江口委員。

○**委員** これ、先生は持たないんですか。1,827は生徒ばかりですか。

○**教育長** 引頭次長。

○**教育次長** 先生も持ちます。今回は生徒用のみの数、生徒プラス予備用、故障等の対応の予備用でございます。先生分につきましては、来年度予定しております。

○**委員** もうひとつ。これはAI機能がついているんですか。今話題の。今話題の。

○**教育長** 田谷課長。

○**学校教育課長** AI機能については、今の中学校のほうスタディアプリというアプリがございまして、来年度からできれば市で運用できたらいいかなと思うんですが、そのあたりのアプリを、もし予算等が取れましたら、インストールをして運用するような形になるかなと思っております。

○**教育長** 今年度は県のほうの予算で、全ての中学生のタブレットに入っています。

○**委員** 悪用されなければいいですけどね。

○**教育長** その他ございますか。よろしいですかね。

それでは報告第19号につきましては、報告事項ですので、ご了承のほどよろしく願いをいたします。

～ その他報告・連絡事項 ～

○教育長 それでは、その他報告事項に入ります。ある方は、挙手をお願いいたします。戸高課長。

○生涯学習振興課長 スターピアくだまつ大ホール、展示ホールのネーミングライツパートナーについてご報告いたします。

7月のこの会議で、私が不在にしておったときに原田部長のほうから報告があったかと思いますが、その時は、今からネーミングライツパートナーを募集しますということだったかと思います。今月、その選定委員会がありまして、現時点では優先交渉者を決定しましたということで、Kビジョン株式会社さんと今、契約に向けて話を進めております。これは公にしておりますので、現時点ではまだ優先交渉者ということで、話がうまくまとまれば、このままKビジョンさんで話を進めていくと。来年の4月1日から、また、大ホール、展示ホールが何らかのKビジョンさんの名前が入ったホールに変わる可能性があるということで、今、現時点でお伝えをしておきたいと思います。以上です。

○委員 スターピアくだまつの名前はなくなるんですか。

○教育長 戸高課長。

○生涯学習振興課長 スターピアくだまつの名前は残ります。募集要項の条件にスターピアくだまつという名前を残してくださいと、それ以外に、好きな名前をつけてくださいということ。

○委員 例えば、Kビジョンスターピアくだまつなら。

○教育長 戸高課長。

○生涯学習振興課長 そういったことになります。

○委員 ですね。価格はいくらくらいするの、言えれば。

○教育長 戸高課長。

○生涯学習振興課長 こちらの希望価格は年間100万円を出しておりますので。〔「安いですね」と言う者あり〕そのあたりの金額が出てくるかと思えます。

○教育長 よろしいですか。はい、そのほか。

それでは次回の日程調査に入りたいと思います。村上課長補佐。

○教育総務課長補佐兼管理係長 資料6ページのほうになります。委員さん達に来ていただきたい行事については、1日土曜日、臨時会。申し訳ございません。10時となっておりますが、正しくは9時からになりますので、よろしく申し上げます。

同日、下松市教育研究大会、公集小学校、東陽小学校です。

それから、ご案内のほう差し上げておりますが、16日木曜日、山陽小野田市で令和7年度山口県教育委員会協議会研修会がございますので、皆さんの出席をお願いします。本庁に集合してもらって、公用車のほうで行くようにしたいと思います。山陽小野田市、13時から受付ということになりますので、山陽小野田市まで1時間半以上はかかると思いますので、10時くらいに集合していただいて、公用車で行っていただくということによ

ろしいでしょうか。それから来月定例会は23日木曜日13時30分からとなっております。以上です。

○教育長 はい。ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、9月の教育委員会定例会を終了したいと思います。お疲れさまでした。

午後2時00分終了